

**「禁忌」及び  
使用上の注意改訂のお知らせ**

パーキンソン病治療剤(選択的 MAO-B 阻害剤)

**セレギリン塩酸塩錠 2.5mg「タイヨー」**

(一般名：セレギリン塩酸塩)

この度、標記製品の「禁忌」及び「相互作用」を以下のとおり改訂致しましたのでご案内申し上げます。  
今後のご使用に際しましては、電子化された添付文書(以下、電子添文)をご参照下さいますようお願い申し上げます。

## 1. 改訂内容(抜粋)

(追記箇所 下線：\_\_\_\_\_、削除箇所 下線：\_\_\_\_\_)

改訂後(新記載要領)	改訂前(旧記載要領)
<p><b>2. 禁忌(次の患者には投与しないこと)</b></p> <p><b>2.2</b> ペチジン塩酸塩含有製剤、トラマドール塩酸塩又はタペンタドール塩酸塩を投与中の患者[10.1 参照]</p> <p><b>2.3</b> <u>他の選択的MAO-B阻害剤(ラサギリンメシル酸塩及びサフィナミドメシル酸塩)を投与中の患者</u>[10.1参照]</p> <p style="text-align: center;">&lt;略&gt;</p> <p><b>2.6</b> <u>三環系抗うつ剤(アミトリプチリン塩酸塩等)又は四環系抗うつ剤(マプロチリン塩酸塩等)を投与中の患者</u>[1.1、10.1参照]</p> <p><b>2.7</b> <u>選択的セロトニン再取り込み阻害剤(フルボキサミンマレイン酸塩等)、セロトニン再取り込み阻害・セロトニン受容体調節剤(ボルチオキセチン臭化水素酸塩)、ノルアドレナリン・セロトニン作動性抗うつ剤(ミルタザピン)、セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤(ミルナシプラン塩酸塩等)、選択的ノルアドレナリン再取り込み阻害剤(アトモキセチン塩酸塩)、マジンドール、メタンフェタミン塩酸塩又はリスデキサンフェタミンメシル酸塩を投与中の患者</u>[10.1 参照]</p>	<p style="text-align: center;"><b>【禁忌(次の患者には投与しないこと)】</b></p> <p>(2) <u>ペチジン塩酸塩、トラマドール塩酸塩又はタペンタドール塩酸塩を投与中の患者</u>[<u>高度の興奮、精神錯乱等の発現が報告されている</u>]</p> <p>(3) <u>非選択的モノアミン酸化酵素阻害剤(サフラジン塩酸塩)を投与中の患者</u>[<u>高度の起立性低血圧の発現が報告されている</u>]</p> <p style="text-align: center;">&lt;略&gt;</p> <p>(6) <u>三環系抗うつ剤(アミトリプチリン塩酸塩等)を投与中あるいは中止後14日間の患者</u>(「相互作用」の項参照)</p> <p>(7) <u>選択的セロトニン再取り込み阻害剤(フルボキサミンマレイン酸塩等)、セロトニン再取り込み阻害・セロトニン受容体調節剤(ボルチオキセチン臭化水素酸塩)、セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤(ミルナシプラン塩酸塩等)、選択的ノルアドレナリン再取り込み阻害剤(アトモキセチン塩酸塩)又はノルアドレナリン・セロトニン作動性抗うつ剤(ミルタザピン)を投与中の患者</u>(「相互作用」の項参照)</p>

&lt;裏面につづく&gt;

改 訂 後 (新記載要領)			改 訂 前 (旧記載要領)		
<b>10. 相互作用</b>			<b>3. 相互作用</b>		
<b>10.1 併用禁忌 (併用しないこと)</b>			<b>(1) 併用禁忌 (併用しないこと)</b>		
薬剤名等 ペチジン塩酸塩含有製剤 ペチロルファン® ترامadol塩酸塩 ترامール® タペンタドール塩酸塩 タペンタ® [2.2 参照]	臨床症状・措置方法 <略>	機序・危険因子 <略>	薬剤名等 ペチジン塩酸塩 オピスタン®等 ترامadol塩酸塩 ترامール®等 タペンタドール塩酸塩 タペンタ®	臨床症状・措置方法 <略>	機序・危険因子 <略>
選択的MAO-B阻害剤 ラサギリンメシル酸塩 アジレクト® サフィナミドメシル酸塩 エクフィナ® [2.3 参照]	高血圧クリーゼ及びセロトニン症候群等の重篤な副作用発現のおそれがある。本剤の投与を中止してからラサギリンメシル酸塩及びサフィナミドメシル酸塩の投与を開始するまでに、少なくとも14日間の間隔を置くこと。また、ラサギリンメシル酸塩及びサフィナミドメシル酸塩の投与を中止してから本剤の投与を開始するまでに少なくとも14日間の間隔を置くこと。	相加作用のおそれがある。	非選択的モノアミン酸化酵素阻害剤 サフラジン塩酸塩	高度の起立性低血圧の発現が報告されている。	詳細は不明であるが、相加作用によると考えられる。
三環系抗うつ剤 アミトリプチリン塩酸塩 トリプタノール® アモキサピン アモキサン® イミプラミン塩酸塩 トフラニール® クロミプラミン塩酸塩 アナフラニール® ドスレピン塩酸塩 プロチアデン® トリミプラミンマレイン酸塩 スルモンチール® ノルトリプチリン塩酸塩 ノリトレン® ロフェプラミン塩酸塩 アンプリット® [1.1、2.6 参照]	高血圧、失神、不全収縮、発汗、てんかん、動作・精神障害の変化及び筋強剛等の副作用があらわれ、更に三環系抗うつ剤との併用下において死亡例も報告されている。本剤の投与を中止してから三環系抗うつ剤及び四環系抗うつ剤の投与を開始するまでに、少なくとも14日間の間隔を置くこと。また、三環系抗うつ剤及び四環系抗うつ剤の投与を中止してから本剤の投与を開始するまでに、少なくとも2~3日間の間隔を置くこと。	詳細は不明であるが、相加・相乗作用によると考えられる。	三環系抗うつ剤 アミトリプチリン塩酸塩 トリプタノール®等	高血圧、失神、不全収縮、発汗、てんかん、動作・精神障害の変化及び筋強剛といった副作用があらわれ、更に死亡例も報告されている。	詳細は不明であるが、相加・相乗作用によると考えられる。

<次頁につづく>

改訂後(新記載要領)			改訂前(旧記載要領)		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
<p>四環系抗うつ剤</p> <p>マプロチリン塩酸塩</p> <p>ルジオミール®</p> <p>ミアンセリン塩酸塩</p> <p>テトラミド®</p> <p>セチプチリンマレイン酸塩</p> <p>テシプール®</p> <p>[2.6 参照]</p>			←追記		
<p>選択的セロトニン再取り込み阻害剤</p> <p>フルボキサミンマレイン酸塩</p> <p>ルボックス®</p> <p>デプロメル®</p> <p>パロキセチン塩酸塩水和物</p> <p>パキシル®</p> <p>セルトラリン塩酸塩</p> <p>ジェイゾロフト®</p> <p>エスタロプラムシュウ酸塩</p> <p>レクサプロ®</p> <p>[2.7 参照]</p>	<p>両薬剤の作用が増強される可能性があるため、本剤の投与を中止してから選択的セロトニン再取り込み阻害剤、セロトニン再取り込み阻害・セロトニン受容体調節剤、ノルアドレナリン・セロトニン作動性抗うつ剤、セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤、選択的ノルアドレナリン再取り込み阻害剤、マジンドール、メタンフェタミン塩酸塩及びリスデキサンフェタミンメシル酸塩の投与を開始するには少なくとも14日間の間隔を置くこと。また本剤に切り換える場合にはミルナシプラン塩酸塩は2～3日間、デュロキセチン塩酸塩は5日間、フルボキサミンマレイン酸塩及びベンラファキシン塩酸塩は7日間、パロキセチン塩酸塩水和物、セルトラリン塩酸塩、ボルチオキセチン臭化水素酸塩、アトモキセチン塩酸塩、ミルタザピン及びエスタロプラムシュウ酸塩は14日間の間隔を置くこと。</p>	<略>	<p>選択的セロトニン再取り込み阻害剤</p> <p>フルボキサミンマレイン酸塩</p> <p>ルボックス®等</p> <p>パロキセチン塩酸塩水和物</p> <p>パキシル®</p> <p>セルトラリン塩酸塩</p> <p>ジェイゾロフト™</p> <p>エスタロプラムシュウ酸塩</p> <p>レクサプロ®</p>	<p>両薬剤の作用が増強される可能性があるため、本剤の投与を中止してから選択的セロトニン再取り込み阻害剤、セロトニン再取り込み阻害・セロトニン受容体調節剤、セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤、選択的ノルアドレナリン再取り込み阻害剤及びノルアドレナリン・セロトニン作動性抗うつ剤の投与を開始するには少なくとも14日間の間隔を置くこと。また本剤に切り換える場合にはフルボキサミンマレイン酸塩及びベンラファキシン塩酸塩は7日間、パロキセチン塩酸塩水和物、セルトラリン塩酸塩、ボルチオキセチン臭化水素酸塩、アトモキセチン塩酸塩、ミルタザピン及びエスタロプラムシュウ酸塩は14日間、ミルナシプラン塩酸塩は2～3日間、デュロキセチン塩酸塩は5日間の間隔を置くこと。</p>	<略>
<p>セロトニン再取り込み阻害・セロトニン受容体調節剤</p> <p>ボルチオキセチン臭化水素酸塩</p> <p>トリンテリックス®</p> <p>[2.7 参照]</p>		<p>下から4番目に移動→</p>	<p>セロトニン再取り込み阻害・セロトニン受容体調節剤</p> <p>ボルチオキセチン臭化水素酸塩</p> <p>トリンテリックス®</p>		
		<p>下から3番目に移動→</p>	<p>セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤</p> <p>ミルナシプラン塩酸塩</p> <p>トレドミン®</p> <p>デュロキセチン塩酸塩</p> <p>サインバルタ®</p> <p>ベンラファキシン塩酸塩</p> <p>イフェクサー®</p>		<p>脳内モノアミン総量の増加が考えられている。</p>
			<p>選択的ノルアドレナリン再取り込み阻害剤</p> <p>アトモキセチン塩酸塩</p> <p>ストラテラ®</p>		

<裏面につづく>

改訂後(新記載要領)			改訂前(旧記載要領)																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>薬剤名等</th> <th>臨床症状・措置方法</th> <th>機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ノルアドレナリン・セロトニン作動性抗うつ剤 ミルタザピン レメロン® リフレックス® [2.7 参照]</td> <td></td> <td>&lt;略&gt;</td> </tr> <tr> <td>セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤 ミルナシプラン塩酸塩 トレドミン® デュロキセチン塩酸塩 サインバルタ® ベンラファキシン塩酸塩 イフェクサー® [2.7 参照]</td> <td></td> <td>脳内モノアミン総量の増加が考えられている。</td> </tr> <tr> <td>選択的ノルアドレナリン再取り込み阻害剤 アトモキセチン塩酸塩 ストラテラ® [2.7 参照]</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>マジンドール サノレックス® [2.7 参照]</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>メタンフェタミン塩酸塩 ヒロポン® リスデキサンプエタミンメシル酸塩 ビバンセ® [2.7 参照]</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	ノルアドレナリン・セロトニン作動性抗うつ剤 ミルタザピン レメロン® リフレックス® [2.7 参照]		<略>	セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤 ミルナシプラン塩酸塩 トレドミン® デュロキセチン塩酸塩 サインバルタ® ベンラファキシン塩酸塩 イフェクサー® [2.7 参照]		脳内モノアミン総量の増加が考えられている。	選択的ノルアドレナリン再取り込み阻害剤 アトモキセチン塩酸塩 ストラテラ® [2.7 参照]			マジンドール サノレックス® [2.7 参照]			メタンフェタミン塩酸塩 ヒロポン® リスデキサンプエタミンメシル酸塩 ビバンセ® [2.7 参照]					<table border="1"> <thead> <tr> <th>薬剤名等</th> <th>臨床症状・措置方法</th> <th>機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ノルアドレナリン・セロトニン作動性抗うつ剤 ミルタザピン レメロン®等</td> <td></td> <td>&lt;略&gt;</td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	ノルアドレナリン・セロトニン作動性抗うつ剤 ミルタザピン レメロン®等		<略>					
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																														
ノルアドレナリン・セロトニン作動性抗うつ剤 ミルタザピン レメロン® リフレックス® [2.7 参照]		<略>																														
セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤 ミルナシプラン塩酸塩 トレドミン® デュロキセチン塩酸塩 サインバルタ® ベンラファキシン塩酸塩 イフェクサー® [2.7 参照]		脳内モノアミン総量の増加が考えられている。																														
選択的ノルアドレナリン再取り込み阻害剤 アトモキセチン塩酸塩 ストラテラ® [2.7 参照]																																
マジンドール サノレックス® [2.7 参照]																																
メタンフェタミン塩酸塩 ヒロポン® リスデキサンプエタミンメシル酸塩 ビバンセ® [2.7 参照]																																
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																														
ノルアドレナリン・セロトニン作動性抗うつ剤 ミルタザピン レメロン®等		<略>																														
<b>10. 相互作用</b> <b>10.2 併用注意(併用に注意すること)</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>薬剤名等</th> <th>臨床症状・措置方法</th> <th>機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>レセルピン誘導体 レセルピン等 テトラベナジン バルベナジントシル酸塩</td> <td>本剤の作用が減弱される可能性がある。</td> <td>脳内ドパミンを減少させる。</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">&lt;略&gt;</td> </tr> <tr> <td>トラゾドン塩酸塩</td> <td>&lt;略&gt;</td> <td>&lt;略&gt;</td> </tr> <tr> <td>デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物</td> <td>セロトニン症候群が発現する可能性がある。</td> <td>脳内のセロトニン濃度を上昇させる作用を有するため、併用によりセロトニン濃度が更に高まると考えられる。</td> </tr> </tbody> </table>			薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	レセルピン誘導体 レセルピン等 テトラベナジン バルベナジントシル酸塩	本剤の作用が減弱される可能性がある。	脳内ドパミンを減少させる。	<略>			トラゾドン塩酸塩	<略>	<略>	デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物	セロトニン症候群が発現する可能性がある。	脳内のセロトニン濃度を上昇させる作用を有するため、併用によりセロトニン濃度が更に高まると考えられる。	<b>3. 相互作用</b> <b>(2) 併用注意(併用に注意すること)</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>薬剤名等</th> <th>臨床症状・措置方法</th> <th>機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>レセルピン誘導体 レセルピン等</td> <td>本剤の作用が減弱される可能性がある。</td> <td>脳内ドパミンを減少させる。</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">&lt;略&gt;</td> </tr> <tr> <td>トラゾドン塩酸塩</td> <td>&lt;略&gt;</td> <td>&lt;略&gt;</td> </tr> </tbody> </table>			薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	レセルピン誘導体 レセルピン等	本剤の作用が減弱される可能性がある。	脳内ドパミンを減少させる。	<略>			トラゾドン塩酸塩	<略>	<略>
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																														
レセルピン誘導体 レセルピン等 テトラベナジン バルベナジントシル酸塩	本剤の作用が減弱される可能性がある。	脳内ドパミンを減少させる。																														
<略>																																
トラゾドン塩酸塩	<略>	<略>																														
デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物	セロトニン症候群が発現する可能性がある。	脳内のセロトニン濃度を上昇させる作用を有するため、併用によりセロトニン濃度が更に高まると考えられる。																														
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																														
レセルピン誘導体 レセルピン等	本剤の作用が減弱される可能性がある。	脳内ドパミンを減少させる。																														
<略>																																
トラゾドン塩酸塩	<略>	<略>																														
←追記			←追記																													

<次頁につづく>

## 2. 改訂理由

### 1) 「禁忌」及び「相互作用：併用禁忌」の項に下記薬剤を追記（自主改訂）

・下記相手薬において、本剤との併用については禁忌とされているため、本剤においても整合を取り「禁忌」及び「相互作用：併用禁忌」の項に追記致しました。

ラサギリンメシル酸塩（アジレクト錠、武田薬品工業株式会社）

サフィナミドメシル酸塩（エクフィナ錠、エーザイ株式会社）

アモキサピン（アモキサン製剤、ファイザー株式会社）

イミプラミン塩酸塩（トフラニール錠、アルフレッサ ファーマ株式会社）

クロミプラミン塩酸塩（アナフラニール錠、アルフレッサ ファーマ株式会社）

ドスレピン塩酸塩（プロチアデン錠、科研製薬株式会社）

トリミプラミンマレイン酸塩（スルモンチール製剤、共和薬品工業株式会社）

ノルトリプチリン塩酸塩（ノリトレン錠、住友ファーマ株式会社）

ロフェプラミン塩酸塩（アンプリット錠、第一三共株式会社）

マプロチリン塩酸塩（ルジオミール錠、サンファーマ株式会社）

ミアンセリン塩酸塩（テトラミド錠、オルガノン株式会社）

セチプチリンマレイン酸塩（テシプール錠、持田製薬株式会社）

フルボキサミンマレイン酸塩（デプロメール錠、Meiji Seika ファルマ株式会社）

ミルタザピン（リフレックス錠、Meiji Seika ファルマ株式会社）

マジンドール（サノレックス錠、富士フイルム富山化学株式会社）

メタンフェタミン塩酸塩（ヒロポン製剤、住友ファーマ株式会社）

リスデキサミンフェタミンメシル酸塩（ビバンセカプセル、武田薬品工業株式会社）

・「禁忌」及び「相互作用：併用禁忌」の項より販売中止されたペチジン塩酸塩（オピスタン製剤、田辺三菱製薬工場株式会社）を削除し、ペチジン塩酸塩含有製剤（ペチロルフアン製剤、武田薬品工業株式会社）を追記致しました。

### 2) 「相互作用：併用注意」の項に下記薬剤を追記（自主改訂）

・下記相手薬において、本剤との併用について注意喚起されているため、本剤においても整合を取り「相互作用：併用注意」の項に追記致しました。

テトラベナジン（コレアジン錠、アルフレッサ ファーマ株式会社）

バルベナジントシル酸塩（ジスバルカプセル、田辺三菱製薬株式会社）

デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物（メジコン製剤、シオノギファーマ株式会社）

- 武田テバDIセンター 0120-923-093 受付時間 9:00～17:30(土日祝日・弊社休業日を除く)
- 医療関係者向けホームページ <https://www.med.takeda-teva.com>

本改訂につきましては、医薬品安全対策情報(Drug Safety Update)No. 324 (2024年3月発行)に掲載される予定です。

最新の電子添文は医薬品医療機器総合機構ホームページ(<http://www.pmda.go.jp/>)に掲載されます。また、専用アプリ「添文ナビ」よりGS1バーコードを読み取る事で、最新の電子添文等をご参照いただけます。



(セレギリン塩酸塩錠「タイヨー」) (01)14987118372607